

ポスト・メイとブレグジットの行方

～強硬離脱派首相誕生＝合意なき離脱なの？～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

- ◇ 保守党の後継党首選は、20日までの議員投票で2候補に絞り込み、一般党员による郵送投票で7月22日の週末までに最終的な勝者を選出する。ブレグジット党に離脱支持の有権者を奪われている保守党としては、強硬離脱を主張する候補を後継党首に選出する以外に党勢回復の道はない。
- ◇ 合意なき離脱を阻止しようとする議会と新首相の対立が予想され、何れかの段階で議会の解散・総選挙が行われる可能性がある。6日の補欠選挙でみられたように、保守党と労働党の支持が拮抗する離脱寄りの接戦選挙区では、保守党とブレグジット党の票が割れ、労働党に有利に働く。他方、残留寄りの選挙区で、労働党は自由民主党に票を奪われる。強硬派の後継党首選出で、保守党がブレグジット党からどれだけ票を奪い返すが、ブレグジットの行方も左右しよう。

6日に行われたピーターボロー選挙区の下院補欠選挙は、労働党の候補が僅か683票差でブレグジット党の候補に競り勝った。同選挙区ではこれまで保守党と労働党の支持が拮抗し、2017年の総選挙では労働党が僅か607票差で保守党候補を破った。その労働党の下院議員が交通違反の偽証罪で収監され、罷免請求により議員辞職し、今回の補欠選挙が行われた。保守党は議席奪還を目指したが、ブレグジット党との間で離脱支持者の票が割れ、労働党の議員が勝利することとなった。先の欧州議会選挙で最多票を獲得したブレグジット党が、小選挙区制の下院で初の議席を獲得すれば、同党に離脱支持の有権者を奪われる保守党の危機感が一段と高まり、後継党首選やその後のブレグジット協議への影響が不安視された。ブレグジット党の下院議席獲得は阻止されたが、ブレグジット党の得票は保守党を大きく上回り、同党が保守党にとって脅威であることには変わりがない。

7日にメイ首相は保守党党首を辞任し、来週から後継党首選が始まる。今回は立候補を表明している議員が多く（立候補の受付締切は現地時間10日の17時）、従来の党首選のルールでは、7月末の議会の夏季休会入り前に後継党首を選出することが難しい。後継党首の選出がずれ込めば、議会の再召集が9月初旬、保守党の党大会が9月末から10月初旬、10月17・18日の欧州首脳会議を経て、10月末のブレグジットの協議期限まで、残された時間は非常にタイトだ。時間短縮のため、今回の党首選では幾つかのルールが変更された。

立候補には従来2名以上の議員の推薦が必要だったが、今回は8名以上の議員の推薦が必要となる。3名以上の立候補者がいる場合、従来は火曜と木曜毎に党所属の下院議員による投票を行い、各投票で最下位の立候補者が脱落していく。今回は初回投票で17票に届かなかった全候補が脱落し、二回目の投票では33票に届かなかった全候補が脱落、三回目以降の投票では従来同様に最下位の候補が順に脱落していく。議員投票で2名に絞り込んだ後、一般党员の郵送による決選投票を行うのは従来通り。初回投票は13日に行われ、その後は二回目の投票が18日、三回目の投票が19日、四回

目の投票が20日と、3日連続で投票が予定されている。決選投票に駒を進めた2候補は、22日の週から英国各地で遊説する。投票用紙は十数万人の一般党員に郵送され、期日までに返送されたものが集計され、7月22日の週に最終的な勝者が発表される。

各種の世論調査やこれまでに獲得した推薦人の数から判断して、ボリス・ジョンソン元外相の優位は揺らがない。それに続くのがマイケル・ゴープ環境・食糧・農村相、ジェレミー・ハント外相、ドミニク・ラーブ元EU離脱担当相だろう。さらに遅れてサジド・ジャビド内相、マット・ハンコック保健相といったところか。それ以外の候補が党首選で勝利する可能性は今のところ低そうだ。各種報道に基づき、主な候補のブレグジットに関する方針を整理すると、

<ボリス・ジョンソン元外相>

合意があろうとなかろうと10月末にEUを離脱する。北アイルランドのバックストップの見直しを要求。技術活用による国境管理を模索。これが通らない場合、管理された形での合意なき離脱。

<マイケル・ゴープ環境・食糧・農村相>

10月末に合意なしに離脱するならば、2020年まで離脱を延期する。どのような離脱を目指すかの具体的な発言はない。

<ジェレミー・ハント外相>

合意なき以外に離脱する道がないなら、それを選択するが、決して望む選択ではない。バックストップの見直しを要求し、10月末までにEUと合意する。協議には保守党内の強硬離脱派グループ（ERG）、閣外協力する北アイルランドの地域政党（DUP）、ウェールズとスコットランドの保守党の代表者も参加。

<ドミニク・ラーブ元EU離脱担当相>

悪い離脱なら合意なしの方がよっぽどマシ。バックストップの見直しを要求。関税同盟や何らかのハイブリッド型ではなく、カナダ型の将来関係を目指す。

<サジド・ジャビド内相>

協議期限の再延長に反対。合意あり離脱を望むが、合意なき離脱にも備える必要がある。バックストップの見直しを要求。技術活用による国境管理を模索。

<マット・ハンコック保健相>

合意なき離脱に反対。合意あり離脱か、離脱しないかの二択。期限付きのバックストップを要求。関税同盟と単一市場から脱退し、包括的な自由貿易協定の締結を目指す。

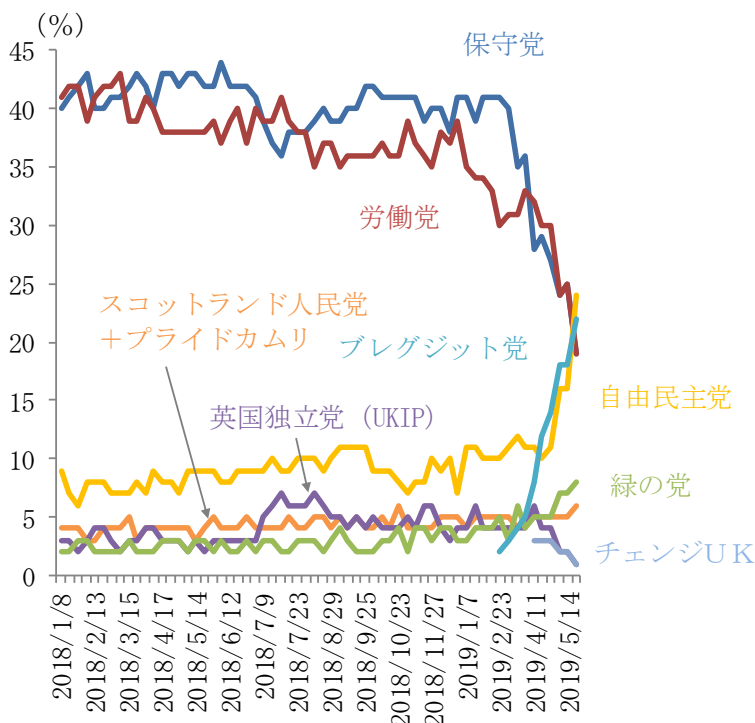
これらの候補を強硬離脱の度合いで順位をつけると、ラーブ>ジョンソン>ジャビド>ハント>ゴープ>ハンコックといった感じだろうか。仮に議会投票でのジョンソン阻止の動きが成功したとしても、それなりに強硬な離脱を主張する人物が後継首相に就くことは間違いない。メイ首相を選

出した前回の党首選は、対立候補（今回も立候補の意向を表明しているレッドソム元下院院内総務）の立候補取り止めで、一般党员による決選投票が行われなかった。今回も決選投票を回避すれば、一般党员からの批判は避けられない。一般党员の投票となれば、強硬な離脱を主張する候補が勝利する可能性が高い。

合意なき離脱を阻止しようとする議会と新首相が衝突し、何れかの段階で議会の解散・総選挙が行われる可能性がある。ブレグジット党と自由民主党の支持が急速に高まっており、小選挙区制の下院選挙であっても、保守党・労働党ともに単独での政権発足は難しい情勢にある（図）。2010年の総選挙後に保守党と連立を組んだ自由民主党は現在残留を支持しており、連立を組むのは難しい。保守党がブレグジット党と連立を組むことになれば、強硬離脱は避けられない。他方、労働党が勝利した場合、二度目の国民投票を求める自由民主党やスコットランド人民党（SNP）が連立相手となりそうだ。その場合、二度目の国民投票を経て、残留となる可能性が高まる。

補欠選挙が行われたピーターボローは、2016年の国民投票で61%の住民が離脱を支持した地域だ。こうした離脱寄りで二大政党の潜在的な支持が拮抗する選挙区では、将来の総選挙でも今回同様に、ブレグジット党と保守党が離脱寄りの支持者を奪い合うことで、労働党を利することになりそうだ。ただ、労働党は現在、残留支持の有権者を自由民主党に奪われている。残留寄りの選挙区では、自由民主党に議席を奪われる可能性が高い。強硬離脱派の後継党首の誕生で保守党が離脱寄りの有権者を奪い返すことに成功すれば、保守党政権誕生の可能性が高まり、保守党の支持低迷が続けば、労働党政権が誕生する可能性が高まりそうだ。

（図）英国の下院選挙での政党別支持率



出所：YouGov資料より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。